

# 相模原市協働事業提案制度

## 相模原市さくらさくプロジェクト推進事業

### 事業実施計画書

平成28年度

相模原市さくらさくプロジェクト推進協議会

## 事業の目的・必要性

### 1 背景

桜は相模原市シティセールスの第一戦略として掲げられている。平成24年度相模原市ブランド戦略会議では、本市の目指すべき都市ブランドイメージとして「住みやすく発展を続ける都市」が設定され、桜は其中で「さくら＝潤い・コミュニティ」と位置付けられた。桜名所は、市役所さくら通りや津久井稲生の桜山など市内各地域に広がっており、多くの市民に親しまれ愛されるその風情は、相模原市民桜まつり（4月）の活況が物語っている。

しかし、現状の取り組みをみると、幅広い市民参加・協働による桜の植栽・保全活動、持続的な桜景観の創造に関わる人材（桜守）の育成、桜情報の発信、桜を核とした観光・ソフト化産業の開発など「桜を仲立ちとした人と自然が共生する環境の形成」の具体的な事業は、必ずしも充分とはいえない状況にある。

### 2 目的・必要性

本事業は桜に関わる6つの事業で構成される。市民参加型の事業を通じて、市民の皆様が相模原を誇りに思い、桜に彩られるまちに憩い、そこで過ごす時間を大切にされ、それぞれの誇りある人生を重ね合わせる、魅力的なまちづくりへの寄与を目的としている。魅力的な事業を企画立案し、多くの市民の方々の賛同の下、桜の植栽をはじめとした事業を協働で取り組み、相模原を誇らしく思う市民意識（シビックプライド）を高揚し、それを国内外に発信する。

各事業における実施目的は以下のとおり。

No.	事業名	実施目的
1	桜の植栽活動	環境保全活動の促進、および絆づくりを深める。
2	桜守の育成	環境保全意識を広め、市民の誇り（シビックプライド）の高揚を図る。
3	さくら観光プロムナードの開発	観光・産業の振興、および市域の発展に寄与する。
4	さくらカフェの開講	桜に対する理解と環境保全活動に関心を深める。
5	情報発信	市内の桜名所や開花状況に関する情報を地域の特色ある文化、環境、産業と結びつけて発信することで、市域の発展に寄与する。
6	その他桜の普及事業	桜の普及に寄与する。



#### 4 さくらカフェの開講

桜の専門家や芸術家らを招き、トークカフェを年2回開催する。市民の誰もが気軽に参加できるオープンカフェ形式の講座を開講し、桜に関する専門知識や栽培技術、桜に関わる文学、美術工芸など幅広いジャンルの話題を提供する。

実施計画

事業名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
さくらカフェの開講(2回)												

#### 5 情報発信

市内の桜名所や開花状況に関する情報を集約しHPを通して発信する。桜を仲立ちとして市民の生活を豊かにし、「指折り数える桜の名所「相模原」」と呼ばれるようなまちづくりのポータルサイトを目指す。

実施計画

事業名	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
HPを通じた情報発信	随 時											

#### 6 その他

##### (1) 市民参加

- ア 植樹式に地域自治会等の市民参加を促す。
- イ 桜守養成講座に市民参加を促す。
- ウ さくらカフェやユニコムフェスタ等のイベント時にアンケートを実施する。
- エ 観光プロムナードの観点から、桜に関する地元名所を市民から応募し、HPやフェイスブックに掲載する。

(2) 中期計画の構築

ア 平成28年度、平成29年度の計画

今後2年間の計画は次のとおりとし、年度毎の実行状況により見直す。

事業名	平成28年度	平成29年度
桜植樹件数	1～2か所	1～2か所
桜守養成講座実施回数(参加目標人数)	7回(25人)	7回(25人)
桜守養成講座実践編実施回数(参加目標人数)	7回(22人)	7回(25人)
さくら観光プロムナード公開件数	2件	2件
さくらカフェ実施件数	2回	2回

イ 平成30年度以降を含めた中期計画

(ア) 収入の確保

平成30年度以降については、相模原市からの補助金収入が無くなるため、植樹や保全等に必要年間30万円の確保を法人会費、個人会費、協賛金や桜の保全に関する委託事業により得ることを検討する。

(イ) 植樹場所

平成28年度以降の植樹場所については、次の場所を案とし、各関係団体と調整をしながら実施していく。

- ・相模原補給廠(多目的スポレク広場) ・道保川
- ・麻溝公園ジョギングコース ・城山地区 等

(ウ) 桜守の活動

【育成】平成29年度までは、養成講座及び同実践編を淵野辺公園で実施し知識や技術を身に付ける。

【自立】身に付けた知識や技術を活かし活動ができる独立した団体を設立する。

【定着】活動場所について平成30年度以降は市民ニーズの高い市役所通りなどの桜の保全活動について各関係団体と調整し検討する。

【育成】その後は、定期的に桜守を募集し、桜守養成講座卒業生が新しい桜守を育てていく

(エ) さくら観光プロムナード

平成29年度までは、年間2件の公開を行い、その後は費用等がかかることから実施を見送る。

(オ) さくらカフェ

平成28年度以降も継続的に年2回の実施を講師等と調整し実施していく。

(カ) 連携事業

平成30年度以降の補助金収入が無くなった後についても、相模原市シティセールスの観点から、上記活動や周知活動について、相模原市関係課と連携していく。

(3) 経済効果の試算

明確な経済効果を試算することは困難ではあるが、観光プロムナードに設定されている観光名所や店舗にさくら開花後に聞き取り調査を行いデータ化することや、さくらマップの配布枚数、公表されている各桜まつりの来場者数など上記事業以外にカウントの可能な周知活動をデータ化することとする。